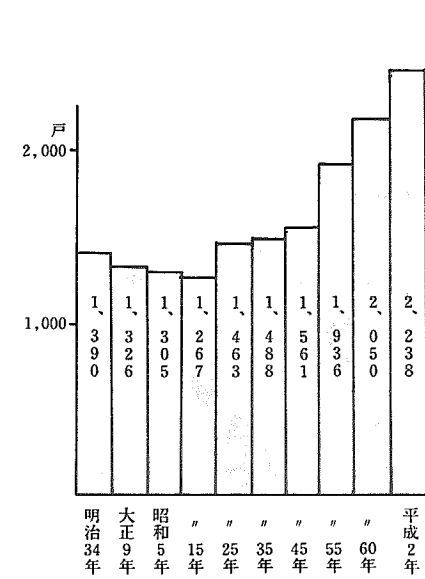
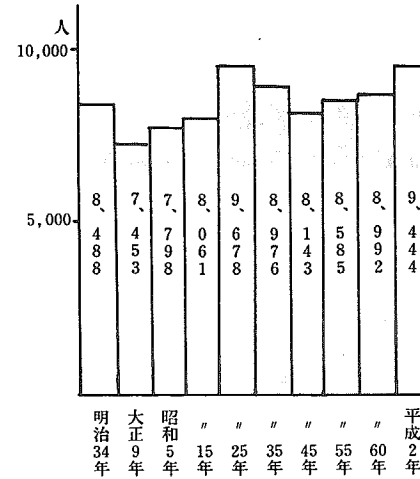


横越村の誕生

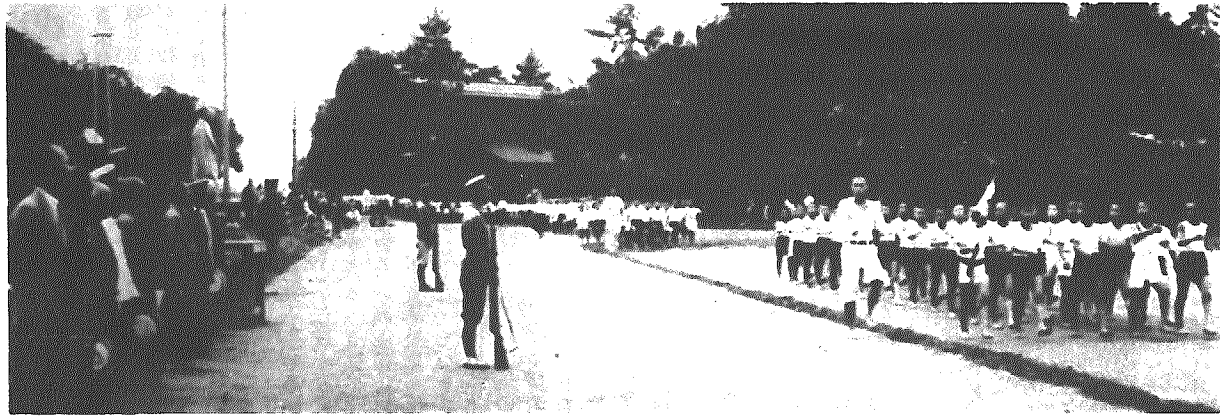
5つの村が手を組んで—学校ができた、役場ができた、電灯もついた!

●人口・世帯数の推移 (大正9年以降国調)

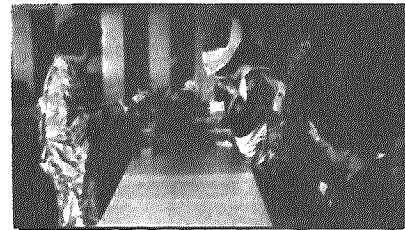


●合村当時の各村の人口・世帯数 (明治34年)

村名	人口	世帯数
旧横越村	3,465人	577戸
旧沢海村	1,550	220
旧津村	1,077	201
旧木村	1,105	146
旧小杉村	1,291	246



戦争が激しくなった頃、学校でも軍国調が強化された (昭和17年頃、横越小学校軍事教練)



公民館での初の結婚式風景 (昭和37年)



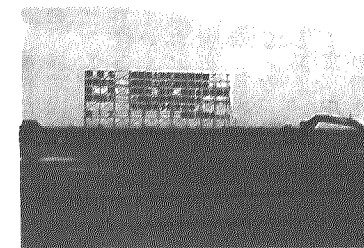
土地改良工事には地元の主婦たちも参加した (昭和23年)



公立横越校



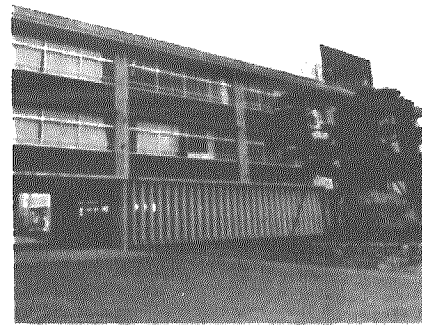
役場新庁舎完成 (昭和60年)



宅地開発がすすむ (平成4年)



おいしいと定評ある横越スイカの出荷 (昭和24年)



永久校舎になった現在の横越小学校

はつらつ伸びやかなりの横越村 町制施行間近

明治34年11月1日、阿賀野川、小阿賀野川沿いに発展してきた「横越村」「小杉村」「沢海村」「木津村」「二木村」の五村が合併して、新「横越村」が誕生しました。今年で91歳になり、五年以内に町制施行を目指して発展を続けております。

ところで、今までの変遷をたどってみると次のようになります。

〈大正、昭和期〉
豊かな米どころとして農業を中心しながらも副業もとり入れて発展してきました。

〈戦後30年、躍動期〉
近代化へまっしぐらの30年間でした。

戦後の農地解放などにより自由と民主主義の時代を反映し農家も活気を呈し、多角経営化が取り入れられていきました。

また、婦人会や青年会が結成されたり、横雲橋も永久橋となりました。

その後、生活環境は、年々近代化し、暮らしも都市化をしてきました。

豊かな田園都市へ向けて限りなく前進した80年代。工業団地や宅地造成などにより、はつらつ伸びやかなりの90年代と発展してきました。

昭和4年頃の役場前の通り。現在の道路と比べると交通量も少なく、十分に整備が行われていないこともわかる。

村道が整備され、交通の安全も確保されている。



広城市町村組合によるゴミ焼却場
清潔で、快適な暮らしが確保されている。

